令和４年度第２回高松市高齢者保健福祉・介護保険制度運営協議会会議録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会　議　名	令和４年度第２回高松市高齢者保健福祉・介護保険制度運営協議会
開催日時	令和４年１０月２０日（木）　午後２時～午後３時まで
開催場所	高松市役所本庁１３階　大会議室
議　　題	(1) 第８期高松市高齢者保健福祉計画の進捗状況について (2) 第９期高松市高齢者保健福祉計画の策定について (3) 第９期高松市高齢者保健福祉計画策定に係る基礎調査の実施について (4)その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	塩見職務代理、石川委員、上田委員、植中委員、喜岡委員、喜田委員、近藤委員、鈴木委員、田中(克)委員、野上委員、萩池委員、古川委員、松村委員、三瀬委員、元木委員
傍　聴　者	０人、報道０社
担当課及び連絡先	長寿福祉課　０８７－８３９－２３４６ 介護保険課　０８７－８３９－２３２６ 地域包括支援センター　０８７－８３９－２８１１

審議経過及び審議結果
会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。 次のとおり、会議を開催した。 １　開会 健康福祉局長挨拶 会議を公開とすることを確認 ２　議題 (1) 第８期高松市高齢者保健福祉計画の進捗状況について（資料１） 事務局から説明 (2) 第９期高松市高齢者保健福祉計画の策定について（資料２） 事務局から説明 (3) 第９期高松市高齢者保健福祉計画策定に係る基礎調査の実施について（資料３） 事務局から説明 (4) その他

意見及び質疑応答

A委員　〈議題（１）について〉

資料１のＰ１１の４の「避難行動要支援者名簿の登録率」について、令和２年度と比べて１ポイント減少しており、登録を希望しない人のうち、「自力で避難できる」等の理由が多く、元気な高齢者が多いことが分かった。

７５歳の後期高齢者になったばかりの方に、毎年７月に１度だけ案内状が届く。今は人生１００歳時代と言われているため、７５歳の時に登録書が届いても、「今はこんなこと考えられない、自力でできる」と軽く考えがちで登録をしない。しかしその後、年を重ね、介護保険サービスが必要になった時などに改めて登録できるかといったら、そのような仕組みがあると教えてもらわないと分からないと思う。行政は、７５歳で案内状を出した後のフォローができていないように思う。確かに後から追加できるため、コミュニティセンターや庁舎などに申込用紙は置いてあるが、「用紙に書いて申し込まれたらどうですか」と声掛けするのは、地域の民生委員や自治会長など、この仕組みがあることを知っている人であればできる。もう少し案内状を送る年齢を引き上げたり、行政からも声掛けするような仕組みがあればよいと思う。

事務局　〈議題（１）について〉

７５歳はまだ元気ということで、案内の際の登録や、その後、何かあった時に登録できる体制を作っていくことは大切だと思う。こちらとしても、広報高松での周知や、人を介して丁寧な周知ができるよう、関係機関にもいただいた意見等を伝えて、広く必要な人が登録できる体制を考えていきたい。

できるだけ個々の高齢者に寄り添った支援という観点から考えると、登録率を上げることは非常に大事だと思っている。今後の対応としては、時期は未定だが、未登録の方や未返送の方に再勧奨を行い、登録をお願いする。また、民生委員と協力し、個別訪問を行うなど、様々な方々に協力をいただき、登録率を上げていきたい。

A委員　自地区の地域福祉ネットワーク会議で要支援者名簿の再確認ということで、登録者全員を回った。その際、民生委員や近所の方に聞くと、とにかく認知度が低いことが分かった。登録していても、登録したことを知らない方もいた。そのようなことがあったため、一人ずつ個別訪問し、このような制度があるということを声掛けし、一人でも多くの方に協力してもらおうといった仕組みづくりを考えているところである。

Ｂ委員　〈議題（１）について〉

避難行動要支援者名簿の登録について、自治会でいろいろと検討したが、登録しても、緊急時に避難場所を網羅できるのかという疑問があり、常日頃から「向こう三軒両隣」を重視し、お互いに一人暮らしの高齢者など見守るよう気を付け、災害が起きた時にどういった対応をするかということを話し合い、声掛けし、特に共助の面で、いかにお互いに助け合えるかが大事だと思う。

Ｃ委員　〈議題（１）について〉

資料１のＰ５の４の「シルバー人材センター会員の就業実人数」について、目標値が令和２年度は 1,550 人だったが、令和３年度は 1,200 人に下げている。これは「社会環境の変化や高齢者の就労ニーズの多様化により年々減少傾向にあるため、更なる就業メニューの充実や、人材育成等の支援が必要である」と書いてあるため、あえて下げたのかと思うが、その理由を教えてほしい。

事務局　〈議題（１）について〉

目標値を下げた理由については、社会環境の変化、特に高齢者の就労ニーズの多様化というところで、定年が引き上げられ、高齢の方も雇用されている中で、シルバー人材センターへの就労希望も減ってきている状況などを勘案して下げた。決して目標値を下げてそれでよいというわけではなく、多様な働き方という点で、色々な就業先が広がっているという点で目標値をこのようにした。

Ｃ委員　〈議題（１）について〉

2060 年あたりには、１．３人～１．４人で１人を支えるような時代がやってくるとのことだが、支え手側の人たちがどの程度増えてきているのか、現状どれくらいいるのかなどが見えるものがあったらよいと思う。

事務局　〈議題（１）について〉

支え手側の人数については、今後 2040 年に向かって全国的に減っていくというように国も推計しており、本市については、第８期計画に生産年齢人口の減少という形で推計はしているが、実測という形では把握していない。今後そのような方向に向かっていくとは思うが、数値の詳細については申し上げられない。

Ｃ委員　〈議題（１）について〉

「多世代交流を実施している割合（居場所）」について、多世代というのは、子どもに居場所へ来てもらって、高齢者に子育て支援を一緒にしてもらったり、現役世代の方も来るといった意味か。

事務局　〈議題（１）について〉

報告書では、居場所での子どもとの交流が中心となっている。休みの日などに交流したり、子どもだけでなく親御さんも一緒に、多世代にわたり交流を行うものである。

Ｃ委員　〈議題（１）について〉

地域を回る中で耳にすることで、地域のリーダーの中には、「子どもは家庭で育てるものだ」という考えを持つ方がまだまだおり、「地域皆で育てるものだ」という理解があまり進んでいない現状があり、なかなか一緒に交流することができない。また、学校に行く時間帯と高齢者の活動時間が違うので、交流が難しいという意見もあるため、そこについてもご検討願いたい。

事務局　〈議題（１）について〉

居場所によっては一緒にゲートボールをしようと時間を工夫して実施しているところもあるが、地域の実施内容によっては子どもと一緒に行うことが難しい場合もあり、一律にはいかないが、地域の特性に応じて可能な限り交流していただけるようこちらも進めていこうと思う。

Ｂ委員　〈議題（２）について〉

調査を実施し、データをとり見える化することで、それをうまく活用して、量より質を高めてほしい。また、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の PDCA をしっかりと周知していただきたい。

３　閉会